

No. 1189

## つのもる政治不信

2/0 74

「ロッキード事件の中間報告を致します。東京地検がこれまで調べた関係者は国会議員17名の他、児玉の関係者、全日空、丸紅関係者等、約460人です」三木内閣の目玉ロッキード徹底説明も、後退する一方、そんな中で、またぞろ三木ひきおろしが始まった。

「私は本当に自由民主党が自覚し、反省と改革を完全にやってのけるといふ態勢に入れば、揺らいている自民党の信頼は回復すると信ずるものであります。」と福田さん。折しも折、ロッキード事件に関わるニセ電話事件が発覚。「現職裁判官が政治活動の疑いを持たれる行動をとったことは、まことに遺憾であります」

「ロッキード事件についての報告は法務大臣にあるべきもので、検事総長が直接、総理に電話する訳がない。めんどうな事になったが真相をはっきりせにゃいかんぜ」大臣はこう言ったものの、政治不信はつのもるばかりだ。

## 文化財を守る

287 大塚

—大分・宇佐—

大分県宇佐市は農業が7割から8割をしめる、人口5万あまりの田園都市、この町に今年の7月、全国で初めての「文化財保護都市」宣言が出された。

宇佐は全国、4万8百を数える八幡社の総本社、宇佐神宮で知られる、日本でも最も早くから文化の開けた町。山や田畑の下は埋蔵文化の宝庫となっている。

しかし、宇佐はここ数年、過疎化を防ぐための工場誘致が盛んに行なわれ、大規模な土地開発がよぎなくされた、その中で破壊されていった文化財の数ははかりしれない。

5年前、ほとんどの市民が文化財に無関心をよそおうなかで、ひとにぎりの人々が立ち上った。そして、運動が突らした「文化財保護都市」宣言。

市長は「法的なこうそく力はないが企業の協力のもと保存につとめたい……」

しかし、企業の協力がなくてはかけ声だけに終わってしまう。とある企業の工場長は「文化財は企業のものではない、国家の大切な遺産……」全国どの町にもある開発と保存の矛盾。市民、企業、行政、三者の調和のとれた宇佐は、文化財を守る今後の方向性をしめしているようだ。